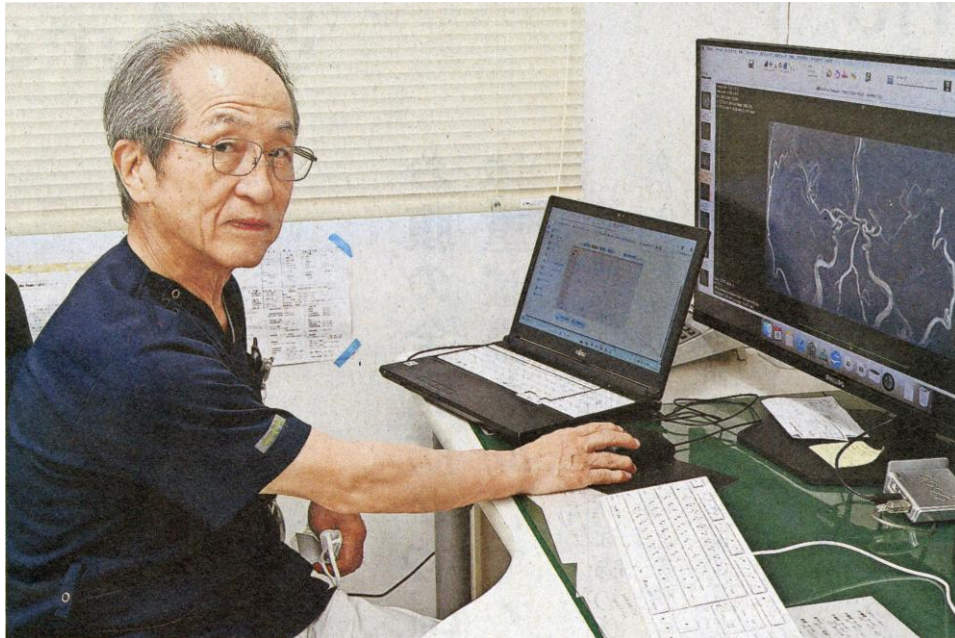


総合診療科
プライマリ・ケアとは

患者ではなく人を診る



「阿波あいネット」から患者の検査画像を確認する永廣病院院長―北島町の吉野川病院

「熱がなかなか下がらない」「腹痛がひどい」。

このような健康上の問題に対して、総合的・継続的に対応する「プライマリ・ケア（PC）」。その一環で、疾患の種類を限定せず総合的に診療を行う「総合診療科」が2018年、厚労省の方針の下、日本専門医機構によって開始された新専門医制度の基本領域に加わった。放送中のテレビドラマ「19番目のカルテ」の題材にもなっており、世間の注目度は高い。県内でPCに関わる医師や総合診療医に、どんな診療が行われているのか聞いた。

県内医師らに聞く

内科、整形外科、救急科 無駄な検査やたらい回しをなどの医療の専門領域に、減らせる利点がある。徳島19番目の新領域として加わった「総合診療科」。専門17年6月から総合診療部の領域を横断して診療できる。外来診療を開始した。ため「何科にかかれればいい 総合診療は、病院や施設のかかからない」という患者によって役割が異なる。大者には有用だ。必要に応じて 学病院の総合診療医は、地域専門科に紹介することで、地域の医療機関から紹介され

情報共有システムが拡大



患者の診療情報を医療介護施設などが共有できる地域包括ケアシステム「阿波あいネット」

る診断が難しい症例を中心に対応する。PCを担いながら、診断困難例や多疾患併存症例に力を発揮する専門医だ。内科などでは「いいから」「や」「どんな」といった症状に特化した診察が多いが、総合診療科では、患者の家庭環境や生活背景などを聞き取りながら、時間をかけて総合的に判断する。

患者の最初の相談窓口となる。高血圧や糖尿病、心不全などの慢性疾患の管理を含め、生活に密着した幅広い診療情報を県全域で共有している。利用施設は123画像システムの導入や、閲覧権限の拡大などを進め、加盟施設も年々増加している。30分から1時間程度の診察を行う。社会的・心理的背景が理由になっていることもあって、まずは生活に関することをよく聞くことが重要」と話す。

PCは、医療だけでなく幅広い意味を持つ。世界各国内でPC医学を視察した徳島市の板東浩医師は「さまざまな見地から総合的な判断が求められるPCは、い硬膜下血腫だと診断されたわゆる専門医療への『ゲートキーパー』』と言う。その病気が隠れているのか分かるためには、地域と基幹施設の連携が重要となる。

県内で連携に役立っているのが、18年から稼働している地域包括ケアシステム「阿波あいネット」だ。県（堀金愛利）